

あらかわこんじゃく

「荒川今昔カルタ」

かいせつしょ

解説書

このカルタについて・・・

かつて荒川は今よりも人々にとって身近な存在でした。一度台風が来れば常に洪水の危険と隣り合わせでしたが、普段の荒川は子どもたちの自由な遊び場であり、食料を得る場であり、漁業の場であり、ボートやヨットなどのレクリエーションの場でもありました。

そんなかつての荒川の姿を知る世代から、これから荒川に関わっていく世代に伝えていきたい。そして身近な荒川に愛着を持って欲しい、そんな思いでこのカルタを作成しました。

ここに掲載している写真は全て足立の荒川付近の写真ばかりです。家族で、学校で、様々な場所でみんなで楽しみながら昔の様子に興味を持ってもらえれば幸いです。



う



あ

荒川の
はるか向うに
筑波山



き

き

木の西新井橋
大正11年に
完成する

この解説書について

写真に写っている風景は、時代や場所がわからないものがたくさんあります。また、昔を知る人に聞くことでわかる事柄もたくさんあります。

そこで、写真の見どころや時代背景などを「荒川の昔を伝える会」の皆さんにご協力いただき本解説書で簡単に説明してあります。

またカルタに使用している写真は、レイアウトの関係で元の写真を切り取って（トリミング）配置しているため、全部表示しきれっていません。そのため、本解説書ではオリジナルの写真を切り取り無しで紹介しています。小さいですがカルタにはない要素をぜひ見つけてくださいね。

「荒川の昔を伝える会」について

使用している写真はすべて荒川ビジターセンター所蔵の写真の中から選びました。その選定と読み札のコメント作成にあたっては、「荒川の昔を伝える会」会員の皆さんに多大な協力を頂きました。

荒川に思いのある会員、実際に記憶をお持ちの会員の素晴らしいコメントでこのカルタが完成しました。

「荒川の昔を伝える会」では荒川の昔を調べ、まとめ、次世代につたえるという活動を行っています。これまでに冊子「荒川の昔」4冊の発行のほか、区内各地で写真展の開催などを行っています。

興味のある方はぜひ荒川ビジターセンターまでお問い合わせください。

あらかわ む つくばやま
荒川の はるか向こうに筑波山



撮影者：石坂 満氏
年代：不明
場所：東武線鉄橋付近

東武線鉄橋越しに筑波山が見える。都市化の進んでいない時代の貴重な風景。荒川にかかる線路は右（下流）から順に東武線、常磐線、千代田線の順。

いもうと あらかわ どて
妹とレンゲをつむ荒川の土手



撮影者：佐藤 為重氏
年代：昭和 39 年頃
場所：旧西新井橋付近の土手

土手で野草の花束を持っている女の子。今も変わらない土手の風景ではあるが、よく見ると堤防の上を自動車が行けるようになっているなど、今とは違う様子もうかがえる。

う ふね ゆうひ あ く
浮かぶ舟 夕日を浴びてもどり来る



撮影者：石井 宏美氏
年代：不明
場所：千住新橋右岸上流側

荒川右岸千住新橋上流側にはハゼ釣りなどの釣り船屋「田川屋」があった。この写真は夕方に釣り舟が戻ってきた様子。

えんとつ おも で の こ だい
煙突の思い出残るすべり台



撮影者：石坂 満氏
年代：平成 16 年 3 月 11 日
場所：足立区立元宿小学校校庭

「お化け煙突」と呼ばれた千住火力発電所の煙突は昭和 39 年に解体され、一部が元宿小学校のすべり台として使われていた。その当時の様子を写した写真。

おうぎおはし さんだい わた そ
扇大橋 三代そろって渡り初め



撮影者：石坂 満氏
年 代：昭和 50 年 7 月 1 日
場 所：扇大橋上

昭和 50 年の扇大橋開通式での夫婦三代そろっての渡り初めの様子。奥に見えるのは小台 1 丁目に今も現存する家具会社の倉庫。

か かぞく たの
貸しボート 家族みんなで楽しめた



提供者：佐藤為重氏
年 代：昭和 39 年頃
場 所：西新井橋付近

貸ボートに乗って荒川で舟遊びを楽しむ風景。その後経済成長とともに水質が悪化し、その姿は見られなくなる。

この当時は、西新井橋が新旧両方あった時でもある。

き にしあらいばし たいしょう ねん かんせい
木の西新井橋 大正 11 年に完成する



提 供 者：三木美代子氏
年 代：昭和 30 年代
場 所：西新井橋

木製の西新井橋であるが、よく見るとその上を自動車走っているのがわかる。奥にはお化け煙突が見え、河川敷には水路がとっているのがわかる。

くう ふく あらかわ た はたけ
空腹を みたす荒川田や畑



撮 影 者：石坂 満氏
年 代：昭和 27 ～ 28 年頃
場 所：旧西新井橋上流左岸

写真に写っている水田は河川敷につくられたもの。戦中～戦後まもなくの時代には荒川河川敷では畑や水田がつくられていた。遠くにはお化け煙突が見える。

じょうききかんしゃ はし ぬ
けむりはき蒸気機関車 走り抜け



撮影者：中村一雄氏
年代：昭和40年頃
場所：常磐線鉄橋

荒川土手を疾走する蒸気機関車（SL）は多くの
人々の記憶に焼き付いている。

こわいものしらずのダイビング



撮影者：荒木良二氏
年代：昭和10年
場所：千住新橋下流右岸

荒川では水練場と呼ばれる泳ぎの練習場が幾
つかあり、写真の風景は千住新橋付近の伝馬
船（てんません）からの飛び込みの様子。橋
の上から大勢の人が見ている様子がわかる。

さむ ふゆ おけ あしい と
寒い冬 桶に足入れセリを採る



撮影者：石坂満氏
年代：昭和40年
場所：足立区本木三丁目付近

本木地区は農家のまわりにため池がたくさん
あり、セリやハスの栽培が盛んであった。写
真では「セリつみたんど」と呼ばれる桶を履
いて収穫している様子が見える。

しろ ゆき あたま ふじさん
白い雪 頭にかぶる富士山だ



撮影者：石坂満氏
年代：昭和56年
場所：西新井橋付近

千住新橋左岸付近から撮影した写真。西新井
橋越しに見える富士山と池袋のサンシャイン
60ビル。心なしか富士山が大きく見える。

すいがい いえ どうろ みず
水害で家も道路も水あふれ



撮影者：木村知義氏
年 代：昭和 33 年
場 所：足立区末広町付近

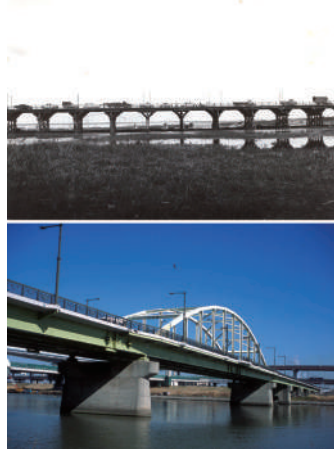
昭和 33 年の狩野川台風によって冠水する末広町（現在の足立 4 丁目 2 3 番地付近）の様子。当時は荒川へ注ぐ支流の氾濫によって浸水する被害が多かった。

せんじゅ はなび なつ つ
千住の花火が夏を告げ



撮影者：不明（足立区報道広報課所蔵）
年 代：昭和 29 年 場 所：不明
戦時中は中止されていた千住の花火大会が昭和 24 年に復活したときの写真。しかしその後河川改修、水質悪化などにより昭和 35 年～ 52 年に再び中止となる。

こうほくばし いまわかし
そろいぶみ 江北橋の今昔



撮影者：石坂 満氏（上）、荒川ビジターセンター（下）
年 代：昭和 30 年代（上）、平成 14 年 3 月 3 日（下）
場 所：江北橋付近
上は木造の時の江北橋（大正 12 年完成）。昭和 41 年 6 月に現在の鉄橋が新設された。

あみ さかな みずあそ
タモ網で魚をとって水遊び



撮影者：新谷光三氏
年 代：昭和 35 年 6 月 26 日
場 所：千住新橋下流左岸

昔の河川敷にはいたるところに水たまりや沼があり、子どもたちにとっては魚とりなどができる遊び場であった。写真左手奥にお化け煙突、右奥には千住新橋が見えている。

でんしゃ せんじゅ はし
チンチン電車が千住を走る



撮影者：石坂 満氏
年 代：昭和 42 年
場 所：上野付近

昭和 3 年から昭和 43 年まで国道 4 号線には路面電車（都電）が通っていた。
電車全面「21」のプレートは水天宮前から千住 4 丁目までを走っていた 21 系統のもの。

つつみ いろ ごしきざくら
堤を色どる五色桜



撮影者：不明（「写真で見る足立区 40 年のあゆみ」より）

年 代：不明
場 所：荒川堤の五色桜

荒川土手の五色桜は観光名所として有名な場所であった。

てづく の どて
手作りのソリに乗って土手すべり



作 者：坂田佳久氏 年 代：一
場 所：一

土手の斜面を滑り降りる土手すべりは今も昔も子供に大人気の遊び。ゴザや板のほか、手作りの木のそりで滑る子供も。広い荒川ならではのおおらかな遊び。

とうふ にしあらいばしだいしゆき
東武バス 西新井橋大師行



撮影者：石井宏美氏
年 代：昭和 38 年頃
場 所：西新井橋

新しく出来た西新井橋を渡る東武バス。バス前面に「西新井大師」行の行先表示の文字が見える。また、背後には 4 本の「お化け煙突」が右手奥には南千住の大毎オリオンズ東京球場（東京スタジアム）も見える。

なつやす ぼう すいれんば
夏休み バタ棒つかむ水練場



撮影者：荒木精一氏
年 代：昭和 9 年
場 所：千住新橋下流部

夏になると荒川には水練場と呼ばれる泳ぎの練習場が設けられた。

写真は千住新橋下流部の水練場、写真左手には東武線鉄橋も見える。

にしあらいばし らんかん はな
西新井橋 欄干ボタンの花ひらく



撮影者：石坂 満氏
年 代：昭和 50 年 7 月 1 日
場 所：西新井橋

現在の西新井橋は昭和 35 年暮に完成。牡丹園が有名な西新井大師へ続くこの橋には牡丹の花をモチーフにした欄干（橋のへりにつくられた手すり）がある。

て さかな よつであみ
ぬれた手で 魚つかむ四手網



撮影者：石坂 満氏
年 代：昭和 46 年
場 所：江北橋下流右岸

江北橋下流部にあった「天然プール」と呼ばれる河川敷の池。

写真では大きな四つ手網を投げ入れる子供の様子が写されている。子供の身長から推測して 30 ～ 40cm 程度の水深か。

いちや あか たいふう
ねられない 一夜を明した台風のと



提 供 者：三木美代子氏
年 代：昭和 34 年
場 所：西新井橋上流左岸

伊勢湾台風（昭和 34 年の台風 15 号）通過後の荒川堤防ギリギリまで水位が上がっているのがわかる。

うま もくせい はし
のんびりと馬もいっしょに木製の橋



撮影者：吉田千伊知氏
年代：昭和30年
場所：旧西新井橋下流右岸

昭和30年の西新井橋の様子。木製の橋の上を馬が荷物を引っ張っている様子がわかる。

ひろ あらかわ
はてしなく広がる荒川どこまでも



撮影者：石坂満氏
年代：平成12年
場所：西新井橋下流

広い空と広い水面は今も昔も変わらない荒川の景色である。

画面右にはこの年オープンした、荒川ビクターセンターのある「学びピア21」が見える。

ひきふね ひ すす ぶね
曳船に引かれて進むダルマ船



撮影者：石坂満氏
年代：昭和50年頃
場所：西新井橋付近

荒川では、砂利や糞尿などを載せて運ぶこのような船のことをダルマ船と呼んでいた。

ふゆやす たの かせんしき
冬休み たこあげ楽し河川敷



撮影者：石坂満氏 年代：昭和50年頃
場所：西新井橋上流左岸

土手を渡る風を捉えて斜面上で凧あげをする子どもたち。

広い河川敷は凧あげにピッタリ。荒川ならではの遊び。

へびつかむ おそろおそろのこどもの手



撮影者：新谷光三氏 年代：昭和36年6月26日
場所：千住新橋上流左岸

裸足でどろんこになってアオダイショウをつまみ上げる子どもたち。

わんぱくで、いきいきとした子どもたちが写されている。

ほうすいろ きしべ たがわや ごや
放水路 岸边に田川屋ボート小屋



撮影者：石井宏美氏 年代：不明
場所：千住新橋上流右岸

千住新橋上流右岸にあった釣り船屋「田川屋」の写真。栈橋と小屋があり小屋の壁には「ハゼ釣り、仕立船」などの文字が見える。現在は小屋のやぐらの木杭のみが残っている。

まちなか じどう う た
町中に 児童が植えた田んぼあり



撮影者：則竹秀子氏
年代：平成25年7月24日
場所：足立区扇1丁目付近

かつて足立は稲作が盛んであった。これは足立区扇に現存する数少ない水田。近隣小学生の田植えの場所としていまも稲作が行われている。

ばしょ ほんすうか ば えんとつ
みる場所で 本数変わったお化け煙突



撮影者：石井宏美氏 年代：不明
場所：桜木町（現千住桜木）尾竹橋から

隅田川沿いにあった千住火力発電所の煙突は、見る場所で本数が変わる「お化け煙突」とよばれ、親しまれてきた。

むし あみ て
虫かごと網を手にもちバツタとり



撮影者：石坂 満氏
年 代：昭和 46 年
場 所：不明

虫かごと虫あみを持つ子供の様子。子どもの背丈ほどのヤブがいたるところにあったので河川敷はバツタやチョウなどがたくさんとれた。

おうぎおおはし
めをみはる 扇大橋すてきだな



撮 影 者：荒川ビジターセンター
年 代：平成 26 年 2 月 25 日
場 所：扇大橋

扇大橋周辺は橋が幾重にも重なる場所である。写真左部土手下を走る道路の上に扇大橋がかかり、その上に首都高速がかかり、さらにその上には日暮里・舎人ライナーが走っている。

こうそくどうろ
もうすぐつながる 高速道路



撮影者：石坂 満氏 年 代：昭和 56 年 7～8 月
場 所：現関原一丁目付近（西新井橋下流）

現在荒川左岸沿いに走る首都高速中央環状線は昭和 57 年に開通した。それまで、用水路の通るのどかな街並みであったが高速道路完成にともなって一変することになる。

あだち にし しかはまはし
やっときた 足立の西はし 鹿浜橋



撮影者：荒川ビジターセンター
年 代：平成 12 年 1 月 24 日
場 所：鹿浜橋下流右岸

鹿浜橋は足立区最西端にある環状七号線（都道 318 号線）にかかる橋。昭和 40 年完成。

ゆき ふれば どて じょう
雪ふれば 土手はたちまちスキー場



撮影者：吉田孝子氏

年代：昭和42年1月1日

場所：千住新橋下流部右岸

雪の土手でスキーを楽しむ子供達の様子。この当時は雪が降るとスキーを楽しむ様子がよく見られた。写真右には河川敷の沼もみえる。

う あらかわ
ヨットもボートも浮かぶ荒川



撮影者：不明（「写真で見る足立区40年の歩み」より）

年代：不明

場所：千住新橋上流部左岸

千住新橋付近では貸ボート、貸ヨットなど水上レクリエーションが盛んであった。

らんかん さくら はな こうほくばし
欄干に 桜の花さく江北橋



撮影者：荒川ビジターセンター

年代：平成14年3月3日

場所：江北橋

江北橋付近は五色桜の名所として親しまれた場所。橋の欄干には桜の絵柄があしらわれている。

ま いと さき
リール巻く 糸の先にはボラやハゼ



撮影者：勝間榮雄氏

年代：昭和52年

場所：千住新橋下流右岸

現在の虹の広場付近で魚釣りをする子どもたち。

向こう岸には建設中の首都高速が見える。

わた おうぎおおはし
るるんで 渡る扇大橋サイクリング



撮影者：荒川ビジターセンター
年代：平成12年1月24日
場所：扇大橋下流右岸

日暮里・舎人ライナー建設前の扇大橋のよう
すで、ちょうど右端に橋脚建設のための工事
が始まっているのがわかる。(扇大橋は昭和
50年7月に開通式が行われた)

けんせつちゅう
レンズごし 建設中のスカイツリー



撮影者：谷茂岡建次氏
年代：平成23年1月10日
場所：千住新橋上流部左岸土手

千住新橋越しに見える新たなランドマーク、
東京スカイツリー。この写真は建設中で、上
層部にまだクレーンが残っているのが見え
る。

かみ あつ こどもたち
ろじうらで 紙しばいに集まる子供達



撮影者：吉田千伊知氏
年代：昭和29年
場所：足立区千住末広町（現足立4丁目付近）

千住末広町で紙芝居を見に集まる子どもた
ち。演目は当時人気の『笛吹童子』。撮影者
は自宅窓からこの様子を撮影したとのこと。

わ あらかわなが ゆ
我がまちを ゆるり荒川流れ行く



撮影者：石坂満氏
年代：昭和63年5月13日
場所：東武線鉄橋下流左岸

現在の足立リバーステーション付近からの撮
影。対岸に北千住の駅ビル(ルミネ)が見える。

「荒川今昔カルタ」のできるまで



2013 年 10 月～ 1 2 月

まずはカルタに使用したい写真選考。
みなさん思い入れのある
写真が沢山ありました。

2014 年 1 月

選んだ写真に合わせた
読み札のコメントを全
員で出し合います。



2014 年 2 月

出来上がった原稿の文
字の間違い、写真の配
置などをチェック。

2014 年 3 月

やっと完成！！
写真とその時代の情
景が盛り込まれた、
面白いカルタになり
ました。



「荒川今昔カルタ」のPDFデータを公開しています

学校やご家庭のプリンターで印刷し、カットしていただければ完成です。

くわしくは下記荒川ビジターセンターホームページをご覧ください。

「荒川今昔カルタ」および解説書

制作・協力

写真提供：石井宏美、石坂満、佐藤為重、吉田千伊知、
吉田孝子、荒木良二、荒木精一、中村一雄、
木村知義、新谷光三、則竹秀子、勝間榮雄、
谷茂岡建次、三木美代子
荒川ビジターセンター（順不同、敬称略）

イラスト提供：坂田佳久

協力：「荒川の昔を伝える会」会員のみなさん
伊佐治敏彦、内田光子、遠藤浩、加賀美弘、
勝間榮雄、金子勝治、栗山美奈子、
坂田佳久、中村一雄、則竹秀子、早川幸江、
谷茂岡建次（五十音順、敬称略）
足立区荒川ビジターセンター解説員

発行年：2014年3月 第一版

2017年12月 第八版

制作：足立区荒川ビジターセンター

お問い合わせ

足立区荒川ビジターセンター



〒120-0034 足立区千住 5-13-5 足立区生涯学習総合施設「学びピア21」4階

TEL：03-5813-3753 FAX：03-3870-8544

ホームページ：<http://ces-net.jp/ara-vc> E-mail：ara-vc@ces-net.jp



足立区荒川ビジターセンター